

解答

□ 問1 a 扱〔う〕 b 諭〔す〕

問2 A エ B ア

問3 エ

問4 エ

問5 それだけだった

問6 がっかりするよ

問7 「おじさんが、父親のように」 励ましたり諭したりせず、何も訊かずに、さりげなくいたわって「くれたところ。」

□

問1 a 往来 b 造宮

問2 イ

問3 A 事 B 言（順不同）

問4 「人の思いを、」 空間と時間 「を超えて正確に伝える点。」

問5 書かれた文字 「だけが歴史であるということ。」

問6 イ

問7 エ

解説

問題数が少ない、書き抜き問題に迷わされる、記述は字数指定が短いことで書きにくい、といった早稲田の特徴がそのまま今年も踏襲されています。精読する・初読時にキーワードをマークする・時間いっぱい考え抜く、という姿勢が必要です。

□ 出典は、重松清の「ホラ吹きおじさん」。作品名からも推測できるように、困った「おじさん」なのですが、実は温かみもあり、表に出さない思いやりを持ったおじさんと「僕」との物語です。

いじめで傷つき、父親の正しいアドバイスでも癒されることのなかった「僕」はおじさんを訪ねます。酒臭い息のおじさんは、僕の悩む様子に気づいたようでしたが、何もいわず大衆食堂に僕を連れて行きます。そこでおじさんなりに僕をもてなしてくれますが、僕の悩みに関しては、特に何もしません。ただ酒を呑み、カツカレーを食べさせて、そのまま遊びに行ってしまう。おじさんの態度にあきれた僕ですが、なんとなく悩みから一歩抜け出すことができたのでした。対比されているのは「親父」です。までも正しい人なのですが、学校でいじめにあって傷ついた「僕」の心を救ってはくれません。

問1 「諭す」が難易度が高いです。

問2 「怪訝そうな」とは、「いぶかしそうな」「納得できず疑問を感じる」という意味です。「首をひねる」とは、「疑問に思い、考える」という意味です。

問3 直前の父親の言葉とその説明に注目しましょう。「『なんも言わんでええけん』と言い、「教え諭すようなゆつくりとした口調で、僕を励ましてくれた」のです。そして「先生もよくない、つまらない連中なんか相手にするな、いまなすべきこと（勉強）をしっかりしろ、堂々と胸を張って学校へ通え」などと、まことに正しいアドバイスをしてくれたのですね。「話に耳を傾けてくれた」り、「応接してくれた」「優しく励ましてくれた」わけでもなく、「担任や友人を冷静に批判してくれた」わけでもなく、「これからとるべき姿勢を示してくれた」という点がポイントです。

問4 出来事と心情変化、という基本を忘れずに選択肢を確認しましょう。「なに泣きそうな顔しとるんな」と、おじさんにおかしそうに冗談を言われた「僕」は、実際にはそんな顔はしていなかったはずですが、必死に抑えていた感情が思わずこみ上げてきてしまったのです。

問5 「同じ段落」の11行、四文を読み直すと、「入れてくれた」「それだけだった」あたりが候補ではないかと考えられます。また、空らんより後にも注目すると、「それっきりだった」、「なにも言ってくれなかったし、なにもしてくれなかった」、「訊こうともしなかった」のです。つまり、おじさんがアドバイスなど何もしてくれなかったことの強

調で、空らんには「それだけだった」が入ると考えられます。

問6 「実際に食べているときにはどうしようもなかったカレーの味は、思いだしているうちに、あれも意外とうまかったんじゃないかという気がしてきた」という部分が、「僕」の心情変化の暗喩になっていると考えられます。

問7 まず字数を気にせずに書いてみましょう。父親Ⅱ「僕」を励まし、これから取るべき姿勢について正しいアドバイスをしてくれた、おじさんⅡ「僕」が悩みを抱えていることに気づいているようだが、何も言わず、何もせずに、さりげなくいたわり、すぐに去っていった、という対比です。「さりげなくいたわってくれた（さりげなくなくさめてくれた）」という内容を入れるのか、ただ「何もせず、何も言わなかった」という内容だけにするのか迷いますが、「恩を感じた」のですから、「おじさんの態度が僕にとってプラスであった」というニュアンスは入れたいところです。

□ 出典は、加藤徹「漢文の素養」。古代日本と文字との関わりを述べた論説文です。以下の要点をしっかりとおさえましょう。

- ・古代ヤマト民族には言霊思想があり、長いあいだ漢字文化を摂取しなかった。
- ・八百万の神への信仰が文字記録に対する抑制となった。その結果、墓誌がない。
- ・弥生時代から文字時代に入ったという言い方もできるが、その時代でも漢字の字形をまねただけであり、日本人の事跡を漢字で記録することはなかった。

問1 「造営」が難しいです。全体で漢字書き取りが四題ですので、三題以上できることが合格への第一歩です。

問2 「言霊思想」の内容をとらえます。「言葉には霊力がある」という思想です。答は、イ。

問3 空らん直後の「ともにコトと言った」から考えます。言葉には霊力があるので、「言葉と出来事」を区別しなかったわけです。「最もふさわしいことば」という指示ですから、答としては、「コト」をそのまま表す「言」と「事」がいいでしょう。

問4 直後の、「何千里も遠く離れた人」や「数百年も前に死んだ人」のメッセージを正確に伝えるとは、何を越えたことになるのか、ということです。書き抜きではないことに注意しましょう。「空間と時間」というのが最もよいでしょう。「場所と時代」などでも得点できるかもしれませんが。

問5 粘土板とは何でしょうか。傍線部直前に「書かれなかった事は、無かった事じゃ」、傍線部直後に「此の文字の精霊の力程恐ろしいものは無い」とあります。答は、「書かれた文字」と考えられます。

問6 弥生時代にも真の漢字文化があったとは言えない、という内容であろうと推測して、選択肢を吟味します。答は、イ。

問7 これも「言霊思想」がポイントです。答は、エ。